

表題：「宜寧南氏忠壯公派」宗族の構造と機能

桃李里（韓国忠清南道唐津郡大湖芝面）は、66戸からなる中山間集落である。もともと桃李里は南氏の開拓した村である。現在66戸のうち35戸は宜寧南氏（文科等級者による朝鮮朝名門両班順位によると24位、服部民夫、1980）忠壯公派一族の家によって占められている。村の開拓・社会構造からみてもこの村は南氏を中心とした両班村（同族村）である。この氏族の系譜をみると、始祖は南敏（中国人、本名金忠、西暦755年）、中始祖南君浦（本貫祖、1186～1264年）から分派した南以興將軍（1576～1627年）を派祖とする子孫の一族であり、代々武官を多く派出していた。屋敷地内には墓域、忠壯公祠堂、墓忠館（記念館）、守宗斎、多数の碑と、宗家（總本家）住居家屋、その他いくつかの建物がある。現在、宗家を守っているのは忠壯公派の14代宗孫（總本家の当主）である。

桃李里の開拓祖は派祖の先々々代（1530年）であり、定着は5代後の派祖の息子代（1641年）である。派祖である南以興（女真人の侵攻「丁卯胡乱」の際の朝鮮側將軍、戦死）とその先代である南瑜（丁酉の再乱、慶長の役の時李舜臣の後をついだ將軍、戦死）は韓国でよく知られている名将である。南以興の忠節をたたえ「賜牌（國から功臣に奴婢、山林、田畠などを授けること）地として73.42km²朝鮮朝16代王仁祖から授けられた。現在宗家の所有地は山林70ha、田4ha、畠2haとなっている。

この村は宗家が代々村に定住し農業を営んでおり、比較的宗族の伝統を維持しているとみてよいだろう。しかし、戦後の農地改革、とくに朝鮮戦争を契機として、村内秩序が混乱、戦争終結後、多くの小作農が離村している。

こうした混乱のあったものの、宗孫が在村しており、宗孫家を中心に宜寧南氏忠壯公派の一族は崇祖、教陸および族譜（忠壯公遺事）の刊行、宗族の管理・運営組織である「宗会」を新たに結成し組織の再編成を行っている。

本報告は360年余り受け継がれてきた「宜寧南氏忠壯公派」宗族の史的展開とそこにおける組織の構造と機能について考察してみたい。

「宜寧南氏忠壯公派」宗族の構造と機能

1 「宜寧南氏忠壯公派」宗族の構造

繼承と相続、養子

2 位階秩序（血統序列）と祭祀

行列（世代）と年齢、

3 村落民と外部社会との関係

婚姻関係、女性の地位、地域社会における宗族の位置

4 宗族間の関係

宗会組織と機能